



とみだ ゆきみつ 富田幸光（古生物学者）

- 瀬戸市出身
- ★ 横浜国立大学卒業後、アリゾナ大学大学院へ留学。国立科学博物館勤務。
- ★ 専門は、恐竜やほ乳類の化石を通じた系統進化の研究。アメリカ、パキスタン、中国、モンゴルなどで化石の野外調査。「絶滅哺乳類図鑑」など著書多数。

わたしの一冊



▼書名 日本恐竜探検隊
▼著者 真鍋真、小林快次／編・著
▼出版社 岩波書店

本の紹介

最近さいきんは日本でも恐竜化石きょうりゆうかせきの発見はっけんが相ついでにありますが、本書しよはそのうちちやんと研究けんきゆうされて英語えいごで論文ろんぶんや報告ほうごが出版しゅつぱんされている恐竜きょうりゆうについて、その発見はっけんから研究けんきゆうまでを物語ものがたりふうににままとめた本ほんです。本当ほんとうは、自分じぶんが中学生ちゅうがくせいのときにワクワクしながら読よんだ本ほんは別べつにあるのですが、有名な小説しやうせつや古典こてんなどと違ちがって、自然科学しぜんかの本ほんは出版しゅつぱん後はやい時期じきに絶版ぜつぱんになるものが多く、同じ本ほんをすすめられないのが残念ざんねんです。本書しよは今でも買かえる本ほんの中では、内容的ないようてきにその本ほんに近いものと思おもいます。



小中学生のみなさんへ

私わたしは子供のころ、小説や物語ものがたりを読よむと、気持ちの上ではまるでその主人公しゅじんこうになりきってしまうという変へんなクセがありました。楽しい小説しやうせつはいいのですが、教科書きょうかしょにのるようなものは、悲かなしかったり、怖こわかったり、貧ますしかったりというのが多く、とても読よみ進むすすむことができませんでした。だから、そのような文学ぶんがく的な本ほんを避さけてしまったのです。でも、化石かせきのような自然しぜんの不思議ふしぎを実感じつかんできるものが大好きで、とくに古生物学者こせいぶつがくしやの探検たんけんや化石発見かせきはっけんの物語ものがたりは、ドキドキ、ワクワクしながら読よむことができました。ですから、人ひとから推すいせんされた本ほんを読よむのはもちろんいいことですが、もしそれが好きになれなくても、無理むりして読よむ必要ひつようはありません。まずは自分の好きな分野ぶんやの本ほんを楽したのしく読よむことをすすめます。子供のときに読よめなかつた本ほんも、大人おとなになって興味きょうみがわいたら読よめばいいと思います。僕ぼくが今、中国ちゆうごくの歴史れきしの本ほんにはまっているように。

その他の紹介図書

- ◆ 「小学館の図鑑ネオ・大むかしの生物」（日本古生物学会／監修）小学館
- ◆ 「恐竜と生きた男」（G・G・シンブロン／著 鎌田、山田／訳）徳間書店



内藤洋子(エッセイスト)

ないとうようこ

- 名古屋市出身、岩倉市在住
- ★ 小学生のときに父親を、高校生のときに母親を亡くす。家業の金物店を経営しながら高校を卒業。
- ★ 四十歳のときデビュー作「わが故郷は平野金物店」がベストセラーとなる。その後、講演活動、エッセイスト、ラジオパーソナリティとして幅広い分野で活動。

わたしの一冊



- ▼書名 13歳のハローワーク
- ▼著者 村上龍/著 はまのゆか/絵
- ▼出版社 幻冬舎

本の紹介

夢のとびらを見つけよう

子どもはいつかは大人になり、生きていくために何らかの方法でお金を稼がなくてはなりません。ほとんどの大人は高齢者になるまで働きつづけます。ならばイヤイヤではなく、楽しく働こうよ。そのためには子どもの中から何を心がけたらいいのか。そもそも世の中には、どんな職業があるのか……を、この本は、詳しく具体的に教えてくれます。五一四種類の職業が紹介されていて、読みやすいエッセイも付いています。著者は言います。大人には二種類の人間しかいない。自分に向いている仕事で生活の糧を得て

小中学生のみなさんへ

夢さえあれば

いる人と、そうではない人。たしかにその通りだと思います。働くことの大切さを自然に学べる一冊。お父さんお母さんにも、ぜひ読んでほしい名著です。



小学生のころから文章を書くことが好きだった私は、大人になったら本を書きたいという目標をもっていました。ところが小学生のとき父が、高校生のとき母が、ともに病気で死んでしまい、六歳下の弟とまずしい生活を送るようになりました。大学にも進めません。私は考えました。親がいなくても、家が豊かでもなくても夢をあきらめるなんて、もったいない。弟のプロ野球選手になりたいという夢もかなえてやりたい。まわりの人たちは無理と言いましたが、二人で絶対やりとげると決め、弟(平野謙)も自分の夢をかなえて中日ドラゴンズの選手になりました。

その他の紹介図書

◆「生きてるってすてきだね」(いながきようこ) 偕成社



中嶋一貴(F1ドライバー)

なかじまかずき

■ 岡崎市出身

- ★ 全日本カート選手権 F Aクラス参戦シリーズ3位(H14)。エッソ・フォーミュラトヨタシリーズチャンピオン(H15)。全日本F3選手権シリーズ5位(H16)。同2位(H17)。GP2シリーズ参戦シリーズ5位。
- ★ F1世界選手権参戦(H20～H21)

わたしの一冊



- ▼ 書名 半落ち
- ▼ 著者 横山秀夫
- ▼ 出版社 講談社

本の紹介

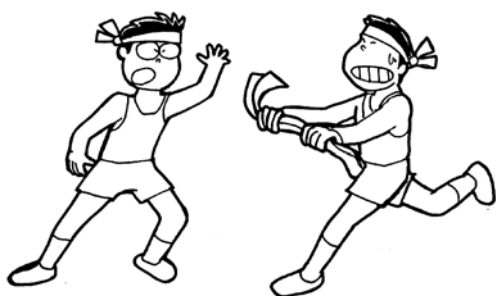
僕がお薦めする横山秀夫さんの「半落ち」は、現役警察官でありながら病気の妻に乞われて囑託殺人を犯してしまった梶聡一郎が、罪を認めながらも犯行後二日間の行動を黙秘するところからその謎が解けるまでを、彼に關わる様々な立場の人の視点から描いています。

梶と、彼と関わる六人それぞれの利害や感情が交錯しながら進んでいく物語は臨場感たっぷりです。それぞれの背景、空白の二日間の梶の行動を通して、生と死、人との絆、そしてさまざまな社会問題と、多くの事柄について考えさせられます。そして、そのそれぞれの人が梶と関わることによつて自身の問題に自分なりの決着をつけていき、最後は梶自身もその人たちが

小中学生のみなさんへ

に救われていく、そんな物語のエンディングがとても好きです。

学生の頃は特に意識していませんでしたが、最近一般的に社会人といわれる年代になって僕は人とのつながりを意識するようになりました。紹介させてもらった「半落ち」にも描かれていることですが、ある人との出会いが人生を変えることがあるように、普段の生活のちよつとした場面でも僕は周りの様々な人から影響を受け、支えられながら生きていくのだと感じます。最近社会が変化していく中で人とのつながりが希薄になってきているというのを見聞しますが、人は必ず何かの形で他人と関わり合っているから生きていかなければならないし、その中で競争し支え合いつながりながら成長していくものだと思います。特に学生時代は多くの人と接する機会が最もある時なので、その機会を是非活かしてください。





なかむらこう

中村豪（元高校野球監督）

- 名古屋市出身、吉良町在住
- ★ 愛工大名電高等学校野球部監督（昭54～平5）。在職中に、イチロー、工藤、山崎ら14名のドラフト選手を輩出。豊田大谷高校野球部監督（平14）。夏の甲子園出場三回、春の選抜大会出場二回。
- ★ 日本高等学校野球連盟育成成功労賞受賞（平18）。

わたしの一冊



- ▼書名 宮本武蔵五輪書入門
- ▼著者 桑田忠親
- ▼出版社 日本文芸社

本の紹介

千鍛万練の気持ちで挑む

中学時代にある大会の決勝戦で滅多打ちされ、敗戦投手となった。その口惜しさの中で強くなりたい、精神的な弱さを克服したいという思いから、六十度の戦いで負けを知らないという宮本武蔵の五輪書を夢中で読んだ。高校監督時代も種々参考にしてきた。千里の道もひと足らずはこぶなり。水の巻にある大刀の使い方を会得すれば、全身の動きが柔軟になり正確な判断を下し進退のかけひきの拍子を呑みこむことができる。今日は昨日の自分に勝ち、明日は今日の自分に勝とうと努力し、千里の道を一歩ずつ歩んでゆくのである。千日の稽古を鍛といい、万日の稽古を練とする。鍛錬という言葉のもと、努力してきた。練習、訓練の大切さを強く思った。流れる

小中学生のみなさんへ

キャッチボールから思いやる気持ちを！

水は腐らない。固定は死である。生き抜くためには、常に流動し、水のように変化していかねばならない。固定した途端に腐敗するのだ。このように種々参考にさせてもらって、指導するなかの原点となったように思う。

私は、小学校四年生のころ野球にとりつかれ、放課後夢中で練習をしました。熱心に指導してくれた先生から、チームワークの大切さを学び、自分の失敗でチームに迷惑をかけたために頑張りました。私は投手で球速はあるが四球が多く、皆に迷惑をかけた苦しい思い出があり、そうした子どもころの体験が支えになっているように思います。高校野球の指導者になって約三十年、五百人くらいの卒業生が各方面で活躍していてくれることが私の誇りでもあります。常々言ってきたことは、キャッチボールの原点にもどれということ、相手の気持ちになって捕りやすいところにボールを投げる心遣いができる選手になれるということ。投げる時は情（心）を込めて投げる。受ける時は、熱をもって受ける。この「情熱のキャッチボール」を通して、人を思いやる気持ちを育ててもらいたいと強く思うものです。



ひらたみつる 平田満（俳優）

- 豊橋市出身（高校卒業まで在住）
- ★ 早稲田大学在学中より演劇活動。劇団「つかこうへい事務所」で「熱海殺人事件」などに出演。
- ★ 映画「蒲田行進曲」で日本アカデミー賞受賞。舞台「にんには母さん」「アート」で読売演劇賞受賞。現在、舞台、映画、テレビなどで活躍。

わたしの一冊



- ▼書名 冒険者たち
—ガンバと15ひきの仲間—
- ▼著者 斎藤惇夫／作 藪内正幸／画
- ▼出版社 岩波書店

本の紹介

ガンバと十五ひきの勇気

町のドブネズミ、ガンバは、安全で食べ物には困らないけれど退屈な日々をすごしています。ある日、「大きくて広い」海を見に行こうと誘われて港に行き、港ねずみ、船乗りネズミ、島ネズミと知り合いになり、イタチのために絶滅寸前の島イタチを助けようと、危険な冒険に出かけることになりました。頭のいいガクシヤや、のろまのボーボ、オイボレ、イカサマ、シジンなど、性格の違うネズミたちが、それぞれの勇気と友情で仲間のために戦い、ガンバもリーダーとしてたくましく成長していきます。ドキドキハラハラしながら胸が熱くなる、自分も「広い世界」に冒険に行き、ちよっぴり

大人になったような気持ちになる、勇気の出るお話です。

小中学生のみなさんへ

違う世界を知ろう

大人になってつくづく思うのは、若いころ、特に子供のころにもっといろいろなことをしておけばよかったなあということ。いろいろな人と知り合っているし、もう少し立派な人間になれたかもしれないと思います。でも本を読むと、知らない人に会ったり、知らない場所に行ったりすると同じような気持ちになります。弱い人でも冒険できるし、外国にだって遠い昔にだっていけます。ときには、してはいけない悪いことも本の中では経験できます。いろいろな人のいろいろな生き方を知ること、自分と違う人を理解でき、ほかの人が怖くなくなります。違う世界を知るとはとても楽しいことですよ。





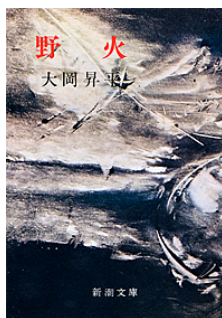
平野啓一郎(小説家)

ひらの けいいちろう

わたしの一冊

小中学生のみなさんへ

- 蒲都市出身
- ★ 京都大学法学部卒。在学中に「日蝕」により第二回芥川賞を受賞。以後、大長編「葬送」をはじめ、数々の作品を発表し、各国で翻訳紹介されている。
- ★ 主な著書に「滴り落ちる時計たちの波紋」「あなたが、いなかった、あなた」「モノローグ」「ディアローグ」「決壊」等。近著は、「ドーン」。



▼ 書名 野火

▼ 著者 大岡昇平

▼ 出版社 新潮社

本の紹介

人間らしく生きるということとは？

『野火』は、小学校の低学年向けの小説ではないが、中学生になるくらいの頃には、一度、読んでみてほしい。

第二次大戦後に書かれた文学作品の最高傑作のひとつであり、戦争という野蛮な行為がどういふものなのかを知る上で、これ以上の作品だと思ふ。

この小説を読むと、人間が人間らしく生きるといふことが、決して自明のことでないことがよく分かる。世界には、今もまだ、悲惨な戦闘が続いている地域がある。暴力というものが、どんなに卑劣に人間の存在を危機に陥らせるかを、言葉の力を通じて体験してもらいたい。

近い世界、遠い世界

小学生の頃は、身のまわりのことで手一杯で、明日、明後日のことを考えていれば十分だったが、中学生になって、自分のこと、自分が生きている世界のこと、将来のことを考えるようになって、小説の世界での体験が、急に貴重に感じられるようになった。

いつの時代のどんな場所に生まれてくるかは、誰にも選べないが、読書を通じて、人はどんな世界をも生きることが出来る。

身のまわりに、同じ考えの人がいないと思つても、十九世紀のフランスにはいたかもしれない。本のいいところは、どんな作家とも、一対一でじっくりと語り合えるところだ。





藤井敦志(プロ野球選手・中日ドラゴンズ)

- 豊橋市出身
- ★ 豊橋東高校、筑波大学、NTT西日本を経て、二〇〇六年中日ドラゴンズ入団。
- ★ 俊足、強肩の外野手として、四年目を迎えた今シーズンは一軍選手として試合に出場し、好成績を残している。右投左右打。

わたしの一冊



- ▼書名 夢をかなえるゾウ
- ▼著者 水野敬也
- ▼出版社 飛鳥新社

本を紹介

※この文章はインタビューをもとにまとめたものです。

●「夢をかなえるゾウ」で、心に残っていることはどんなことですか。

自分が目標とかをしつかり持って、それをかなえるために、いろいろとこういうことをやれ、ああいうことをやれという話なのですが、それが目指すことに直接つながっていることではなく、例えば、サラリーマンとかだつたら靴をしつかり磨くといった身の回りのことなど、普段の生活をきちつとすることで、目指すものに近づいていくというところですか。

何かをしようと思ったときにただ漠然とそれさえしていればよいというのではなくて、ほかにも目を向けることで助けてくれる人が現れたり、目指しているもの以外のところで自分が評価されたりして、目指しているも

のに近づけるということを感じました。

小中学生のみなさんへ

●小中学生の子たちにメッセージをお願いします。

僕は、経歴を見てもらってもわかるように、この世界にいる人たちからすれば異色だと言われる経歴なのですが、僕はプロ野球選手というものに対して、周りがどう言おうと自分は絶対になれるんだって思っつと野球をやってきました。世間一般で言えば野球をやりたいのであれば、公立高校、国立大学ではない道の方が間違いないと思われのですが、そういう道ではなくても本当に自分になれると思っつ、それをしつかりとイメージすることによつて自分に何が必要かを常に考えてやってきました。

周りがどういう状況であつてもやるのは自分なので、どうせ無理だよとか考えずに、志と強い意志をしつかりと持つてほしいと思います。子どもたちのころの方が単純に何になりたいとか言えると思うし、素直に考えられると思うので、自信を持つて人に言えたいと思います。自分で無理だとか限界だとか思わずにやっつていけば、万が一違つたことをやることになつても、その経験は後になつて絶対に生きると思います。そういう気持ちを持つて成長してもらいたいんです。



ほった 堀田あけみ(小説家)

■ 海部郡出身、名古屋市在住

- ★ 県立中村高校在学中に、「1980アイコ十六歳」で文藝賞を受賞し、文筆活動に入る。その後、名古屋大学教育学部、同大学院を経て、現在、相山女学園大学准教授。
- ★ 著書に、「愛をする人」「花のもとにて」「唇の、することほ。」「発達障害だって大丈夫」ほか多数。

わたしの一冊



- ▼書名 風にのってきたメアリー・ポピンズ
- ▼著者 P・L・トラヴァース／作
林容吉／訳
- ▼出版社 岩波書店

があるんだと、私に教えてくれたのが、この本でした。

小中学生のみなさんへ

感じること、考えること

私は、ずっと、子どもの読書感想文のコンクールの審査員をしています。私が、そこで大切にしているのは、自分で感じた何か書いている作品を見つけることです。誰かが言っていたことを、そのまま自分の考えにしてしまうのは、大人でもよくすることです。そして、自分でもそれに気付かなかつたりします。何より、楽ですから。

でも、自分自身で感じることを、考えることを、さぼらないで下さい。考えるのをさぼると、愚かな人になるし、感じるのをさぼると寂しい人になってしまうでしょう。それは、誰のものでもない、自分の感性を信じることでもあるのです。

その他の紹介図書

- ◆ 「二年間の休暇」(ジュール・ベルヌ／作 朝倉剛／訳) 福音館書店
- ◆ 「ジム・ボタンの機関車大冒険」(ミヒャエル・エンデ／作 上田真而子／訳) 岩波書店

本の紹介

文字が見せる夢

これは、夢の物語です。普通の、ちょっとつまらない日常を送る家族のところへ、不思議なお手伝いさんがやってくる、夢のような出来事が次々と起こりますが、やがてその人は、風にのっていなくなってしまうのです。私は、何十回もこの本を読みました。次に何が起こるかはわかっていません。けれど、何度も読むのです。本の中にあるのは、何枚かの絵と、たくさん文字。それなのに、本を読む度に、目の前で、星座達がサーカスを始めたり、町中の人が色とりどりの風船を手に空を散歩したりするのです。こ

とばで夢の世界を自由自在に見ることができ、作家という素敵なお仕事



まつおかじょうじ 松岡錠司(映画監督)

■一宮市出身

★「バタアシ金魚」でデビュー。報知映画賞、毎日映画コンクール、ブルーリボン賞など数々の新人監督賞を受賞。「きらきらひかる」でシカゴ国際映画祭ゴールド・ヒューゴー賞、「東京タワー〜オカンとボクと、時々オトン〜」では、日本アカデミー賞最優秀監督賞を含め五部門受賞に輝く。その他に「トイレの花子さん」等多数。

わたしの一冊

▼書名 100万回生きたねこ

▼著者 佐野洋子/作・絵

▼出版社 講談社



本の紹介

大学生のときでした。友人たちとトンカツ屋で定食を食べていたとき、友人がその本を読みだしたのです。しかも声を出して。トンカツ屋で朗読ですよ。そうしたらそれを聞いていたもうひとりの友人が泣き出したんです。僕は泣くというより猫の話に聞き入って、ただぼおっとしていたのを覚えていません。絵本でありながら、その絵を見なくても聞いているだけで切ない感動を覚える……。すばらしいお話とはそういうものかもしれません。一回しか生きられない人間は、この本を読み、絵を見つめて、一回しか生きられないことの大切さに触れるのでしょうか。

小中学生のみなさんへ

感想を簡単に言えない本を君たちはもつともつと読むべきです。ここをつかまれるような体験が必要です。

ゲームやネットの時間に読書の時間を少し入れてください。本を読むことは大切な体験です。君たちがこれから生きるために必要な力を与えてくれます。ゲームで勝ったり負けたりするのに慣れているから、何でもすぐ結果が欲しいのはわかりますが、それは生きる力にはなりません。

感想文を書くために本を読むのではなく、これだと思う本をゆつくりと時間をかけて読んでみてください。あきらめずに。





まつざわてつろう 松沢哲郎(京都大学霊長類研究所教授・所長)

- 京都大学霊長類研究所(犬山市) 教授・所長
- ★ 一九七四に京都大学卒業。一九七六年から同研究所に勤務。
- ★ チンパンジーの心の研究をして、人間の心の進化的基盤を探る比較認知科学という研究分野を確立した。
- ★ 中日文化賞、紫綬褒章などを受章

わたしの一冊



本の紹介

著者は、一八六七年に、この本に描かれた丸太小屋で生まれました。場所は、今から百年以上前の北アメリカの中西部です。少女ローラとその家族を中心に、開拓者と呼ばれる人たちの日々の暮らしが描かれています。森と草原を舞台に、ヒヨウやクマやブタなどさまざまな動物がでてきます。挿絵画家であるガース・ウィリアムズの絵もすばらしい。「しろいうさぎとくろいうさぎ」「ミス・ビアンカ：くらやみ城の冒険」といった絵本の挿絵を描いた方です。毎日を生きたことのたいせつさ、その喜びと幸せを感じる事ができるでしょう。これはインガルス一家の開拓生活を描いた大河物語の一冊目です。「大草原の小さな家」「プラムクリークの土手で」など続編

もぜひ読んでください。

小中学生のみなさんへ

読書をするときに二つのことをすすめます。第一は、声に出して読む。「音読」といいますが、文章を目で追うだけでなく、声に出し、それを自分の耳で聴きます。目からも耳からも情報が入るので理解が進むでしょう。なめらかに読めて、頭にすっと入るのが良い文章です。だから、自分で作文するときの役にも立ちますね。

第二は、読書の記録をつける。そのためには「日記」が良いでしょう。毎日、ほんの少しでよいから、その日のできごとをノートに書く。一行でも、二行でもかまいません。いつ、どこで、だれと、何をした。その記録です。本を読んだら、何ページまで読んだ、というように記録します。音読と日記、毎日ぜひ続けてみてください。

